

目 次

序 文

第1部 先住民族への差別と収奪の歴史

■伝統的知識という視点から考える

第1章 近代オリンピックと先住民族 ————— 3

■スポーツの国際化と民族差別

- 1 近代オリンピックの始まりとオリンピック・イメージ 3
- 2 創成期のオリンピックとその苦闘 5
- 3 帝国の巨大宣伝テクノロジー「万国博覧会」とオリンピック 10
- 4 「人類学の日」競技会とアイヌ民族選手の参加 13

第2章 「日本人」の極地探検とアイヌ民族の知識 ——— 19

■「帝国」に動員され、忘れさられた先住民族

- 1 南極をめぐる平和イメージと政治利権 19
- 2 白瀬の南極探検とその「成功」の鍵 22
- 3 カラフト・アイヌの知識としての犬・犬糧 26
- 4 郡司の北千島探検失敗と千島アイヌ 30
- 5 先住民族の伝統的知識と帝国の軍事的拡大 34

第3章 「合州国」と「国際連合」を生み出した先住民族 — 44

■近代民主主義を超える試み

- 1 「アメリカ合州国」の誕生と「連邦制」というアイデア 44
- 2 「イロクォイ連邦」とフランクリンの提案 47
- 3 「連邦制」の形成過程と「連邦憲法」の成立 51
- 4 「イロクォイ連邦」の構造と機能 54
- 5 先住民族の政治機構のもうひとつの貢献：「国際連合」への道 60

第2部 「国民国家」形成という名の植民地化

■アジアにおける先住民族の成立

第4章 日本と「北海道」「沖縄」の植民地化 ————— 69

■東アジア史への視座

- 1 「日露交渉」の論理と「アイヌモシリ併合」：日本帝国主義の登場 71
- 2 「台湾出兵」とアジアの国際秩序 85
- 3 「琉球併合」ともうひとつの植民地形成 90
- 4 琉球政府の国際的抵抗と併合の完成 101
- 5 日本の植民地の原型としての「北海道」と「沖縄」 105

第5章 「尖閣諸島」問題と琉球民族の領土的権利 — 111

- 1 先住民族と領土問題 111
- 2 「尖閣諸島」問題に潜む植民地主義：日本政府の論理の検証 115
- 3 植民地主義的拡張の土台としての「琉球併合」 121
- 4 中国政府の論理構造とその問題点 125
- 5 琉球人と「ユクン・クバシマ」：新たな解決に向けて 128

第6章 大規模「水銀中毒」と先住民族 ————— 139

■技術革新・経済成長、そして環境破壊・人権侵害

- 1 「水俣病」「ストックホルム宣言」そして「地球環境問題」 139
- 2 ポトシーの鉱山開発と最初の「水俣病」 141
- 3 技術革新と近代的経済システムへの転換 143
- 4 「水銀アマルガム精錬法」と環境汚染・人権侵害 145
- 5 ヨーロッパの価格革命と近代経済システム 150

第7章 ヒロシマ・ナガサキへの原爆投下と先住民族 — 155

- 1 「マンハッタン計画」と「コロンブス」の再来 155
- 2 ヒロシマ・ナガサキの核爆弾と4つの「ウラン」鉱山 157
- 3 隔離された核施設と先住民族の土地 161
- 4 核の「レイシズム」とは何か 165

第8章 核実験場・ウラン鉱山と先住民族 ————— 169

■放射能に汚染された大地

- 1 冷戦下の核実験場と先住民族の大地 169
- 2 ウラン鉱山と「核の植民地」 183
- 3 核廃棄物と「環境レイシズム」 191

おわりに

索引